

発行者：小原地域振興会

第十二号

発行日：平成26年9月

モニター調査特集号

国土交通省が募集するモニター調査対象地域に小原地域が選ばれました！

小原地域振興会では、国土交通省が募集する「小さな拠点」づくりモニター調査地域の募集に応募し、全国12地域の1つに選ばれました。

このモニター調査を活用し、地域のみなさまと協力して、楽しく、安心して暮らせる地域にするための具体的な計画書である『小原未来設計書』を作成したいと考えています。

地域全体で地域の将来について考える初めての試みです。小原地域の将来のため、みなさまご協力をお願いします。

モニター調査の目的

「小さな拠点」を核とした「ふるさと集落生活圏」づくりの実践的なノウハウの蓄積・普及を図るため、「小さな拠点」づくり等に向けた合意形

お気づきですか？

小原地域は典型的な

過疎・高齢化地域!!

小原地域では、この10年間で人口は1,697人から1,479人にまで13%も減少、高齢化率は44.4%に達しています。2040年には700人以下になり、地域が消滅する可能性があると試算もあります。

JA支所の閉鎖、今岡商店の閉店により、生活に必要な食品、日用品も地域内では調達できない状況に至っています。人口減少や高齢化が進む

成・プランづくりの過程における課題やその解決手法等について、具体的な集落地域を対象としたモニター調査を実施する。(国土交通省ホームページより)

中、過疎地域等における集落を維持していくために、国土交通省が推進しているのが「小さな拠点」づくりです。

「小さな拠点」とは

過疎地域などの集落では、人口減少や高齢化が進む中、食料品や日用品を扱う商店や診療所が閉鎖するなど、日常生活に必要なサービスを受けることが困難になるとともに、コミュニティ機能が低下してきています。今後、集落での暮らしを続けていくことが危ぶまれる状況が全国各地で一層拡大していくことが懸念されています。

こうした状況に対し、地域の再生を目指す新たな取組みとし、暮らしの安心と希望をつなぐ「小さな拠点」づくりが始まっています。

これは、小学校区など複数の集落が集まる地域(集落地域)において、買い物や医療・福祉など複数の生活サービスを歩いて動ける範囲に集め、各集落との交通手段を確保することによって、車が運転

できない高齢者などであっても一度に用事を済ませられる生活拠点をづくり、地域の生活サービスを維持していくという取組みです。

り、新しい地域の活動や雇用が生まれ、集落地域の未来への展望を拓く役割も期待できます。



小学校区など複数の集落が集まる地域において、廣校舎などの既存施設を活かし、生活サービスや地域活動をつなぐ「小さな拠点」づくりにより、暮らしの安心と未来の希望を育む

(集落地域の大きな安心と希望をつなぐ「小さな拠点」づくりガイドブックより)

楽しく、安心して暮らせる地域にするために、皆様のご意見を聞かせてください！

今回、JR吉田口駅周辺を「小さな拠点」として位置づけ、元JA支所建屋・倉庫、駐車場、駅舎、小田小学校、元商店及び周辺の空き家を有効活用することを検討する内容で申請を行いました。

この度の取組を通して、地域課題を把握し、地域の再生のための具体的な計画を作成するとともに、

小原地域の課題、財産、将来計画を住民みんなが認識し、共有する機会にしたいと考えています。

計画の内容は以下の通りです。積極的な参加・ご協力をお願いします。

モニター調査スケジュール

実施内容	平成26年				平成27年	
	9月	10月	11月	12月	1月	2月
講演会		●				●
アンケート調査	●	●	●			
ワークショップ		●	●			
先進地調査	●		●			
協議会の開催	●	●	●	●	●	●
「小原未来設計書」の作成・配布					●	●
検討会・フォーラム	●		●	●	●	●

事務局

小原地域振興会では、モニター調査を実行するにあたり、「小原未来設計プロジェクト」（PJと略記）と命名し、以下メンバーを事務局として対応いたします。

PJリーダー：明木 一悦 事務局長
 PJサブリーダー：山根 栄治 副会長
 同：川森 泰彦 絆運営委員長
 会計：丸山 義捷 振興会会計
 事務担当：板倉まゆみ 振興会会員
 同：山根千鶴子 振興会会員



第1回講演会

講師：藤山 浩氏

島根県中山間地域研究センター
研究統括監

開催日：10月23日（木）

時間：19:00～

場所：小原中央集会所「絆」

演題：「小さな拠点」とは

対象：小原地域のみなさん

1、アンケート調査の実施

対象：

- ①高校生以上の小原在住の方
- ②小原に実家があり、小原以外に居住している方
- ③小原から他の地域に転出した方

※) ②③の方については、小原と現在居住されている地域を比較して、小原の良い点、小原に必要なものについて貴重なご意見をいただけるものと考えています。また、アンケート対象者を把握するため、氏名、住所情報を提供いただく必要があります。アンケートの主旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

実施時期：10～11月

2、年代別ワークショップの開催

*）ワークショップとは意見の共有化

5・6人のグループに分かれ、司会者の指導に従い、小原の将来像について、自由に意見を出し合ってください。

対象：

10, 20, 30, 40, 50, 60, 70以上の年代別に各30名程度に参加を依頼します。

実施時期：10月～11月各年代毎に1回

司会者：一般社団法人

リエゾン研究所

代表理事 丸山法子

3、協議会

対象：事務局とは別に、小原地域住民から12名程度を選抜させていただき、協議会を組織します。

メンバーは、事務局が提案し、小原地域振興会役員会で承認していただきます。

担当：アンケートやワークショップの結果に基づき、今後、小原地域全体として取り組む内容、具体的実現方法について取りまとめを行っていただきます。

4、先進地調査

対象：協議会メンバー

目的：具体的実現方法を検討するにあたり、同様の取り組みを行っている他地域を訪問し、小原で実現するための情報を収集します。

実施回数：2回。1回5名の参加を予定

調査地：島根、高知を候補地としています。

実施時期：9月、11月で計画

5、「小原未来設計書」の作成・配布

担当：協議会、事務局

目的：アンケート、ワークショップ結果のまとめ及び協議会で検討した今後小原で取り組む内容、具体的実現計画を記載した冊子を作成し、アンケート対象者全員に配布することで、みなさんに周知させていただきます。

実施時期：平成27年3月

6、検討会・フォーラム

担当：事務局

内容：進捗状況、課題等をまとめ有識者、国土交通省担当者が出席される検討会において報告を行います。また、2回予定されているフォーラムに参加し、昨年の実施地域等の報告情報を小原での取り組みに反映していきます。

実施時期：9、11、12、1、2月



9月5日国土交通省（霞が関）で行われた検討会で明木事務局長が小原地域のモニター調査取組計画を説明

今回選ばれた12地域(国土交通省ホームページより)

採択団体名	県・市町村名	地区名
花山地区行政区長会	宮城県栗原市	花山地区
NPO法人 あきた地域資源ネットワーク	秋田県東成瀬村	村全体
北部地区振興協議会	山形県小国町	北部地区
山倉・大角住民自治協議会	千葉県香取市	山倉・大角地区
学校法人 法政大学地域研究センター	長野県伊那市	長谷地区
美濃地区自治組織設立準備会	島根県益田市	美濃地区
あば村運営協議会	岡山県津山市	阿波地区
小原地域振興会	広島県安芸高田市	甲田町小原地区
特定非営利活動法人 土佐山アカデミー	高知県高知市	土佐山地域
越裏門・寺川地区村おこし協議会	高知県いの町	越裏門・寺川地区
おくら夢のまちづくり協議会	長崎県五島市	奥浦地域
ひらぼうほたるの里「ひらぼうほたる飛ばせ隊」	鹿児島県鹿屋市	輝北地域



自主防災訓練

6月29日に開催しました小原地域自主防災訓練には、約150人の参加者があり、水害時の減災対策土のうづくり訓練、火災時における消火器の使い方訓練、要支援者の救護としての担架訓練、救急救命であるAEDの操作訓練、そして緊急時炊出し訓練をおこないました。訓練内容は、昨年と同じと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、繰り返すことで身体で覚えることが、緊急時のとっさの動作時に役に立つのです。

災害時にこれだけは知っておこう！

- ◆ 誰もが被災者になる
- ◆ 自分の命を守ることが優先
- ◆ 72時間の自助力と近助力が大切



自分の命は自分で守ろう！

小原地域では8月20日早朝に、ものすごい雷を伴う雨が続きましたが、幸い被害はありませんでした。しかし、広島市を襲った大規模土砂災害は、同じ県内の出来事であり決して他人事ではありません。もちろん他県で発生している災害も同様に他人事ではありません。いつ何時襲ってくるかわからない災害です。少しでも人的被害が出ないように、災害に対して事前に準備をしておくことが大切です。我々の手で自然災害を防ぐことはできません。しかしながら災害時に減災に努めることはできます。自主防災訓練への参加や日頃の近所付き合いなどを通して、災害が襲ってきたときに、人災とならないように心がけましょう。

防災組織の役割ってなんだろう。

- ・近助が連携して防災減災活動を行う地域の共助を体系的に動かす
- ・避難所及び避難所生活に必要な活動を行う
- ・火災防止活動の促進や多種多様の災害に備えての訓練を行う
- ・被害を最小に食い止める活動を行う

災害時の豆辞典

・長靴では、ぬかるみや水の中で足を取られやすいので、スニーカーと杖を持って歩きましょう。できればスニーカーの靴底には、固いものを入れておくことと釘などを踏み抜かなくて済みます。



【編集後記】

大規模土砂災害について、お悔やみを申し上げます。

8月20日未明から早朝にかけて短時間に大量な雨が降り、ゆるくなった地盤が土砂崩れを起こし、広島市安佐北区、安佐南区などの地域において、甚大なる被害が発生しました。お亡くなりになられた方のご冥福と一刻も早い災害の復旧を、心よりお祈り申し上げます。

小原地域自主防災訓練の在り方を見直す時期にそろそろ来ているのではないかと思います。今後は、単位振興会による自主防災訓練を広めていただき、小原振興会では、実際に災害が起きた時のためのリーダー育成や避難所運営などを行っていただくと考えています。

小さな拠点づくりモニター調査では、小原地域のたくさんの皆様に係って頂き、子どもたちの子どものもそのままだと先まで、夢ある小原地域であるための「小原未来設計書」を創ります。これからアンケート調査やワークショップなどたくさんのご協力いただきますように、よろしくお願いたします。

編集委員

「絆」開所日変更のお知らせ

現在の火曜日を木曜日に変更し、以下の通りとさせていただきます。

- ・水曜日 9時～15時
- ・木曜日 10時～16時